＜研究発表Ⅱ 島根県＞

『 自分の生活を見つめ、よりよい生活を創り出す子どもをめざして 』
～一人一人が意欲的に課題に取り組む家庭科学習 「栄養満点弁当大作戦」～

発表者　安来市立赤屋小学校　教諭　越智 裕子

1　はじめに

鳥取県に接し、安来市の山間部にある赤屋小学校は、児童３３名の小規模校である。自然環境に恵まれ、農村社会の伝統や昔から受け継がれてきた生活習慣や行事なども、都市部に比べると多く残っている地域である。

2　主題の設定

子どもたちは地域の豊かな自然を存分に楽しみ、親しんでいるが、生活をみると、家庭生活への関心は薄いと思われ、家事を手伝ったり共に作業をしたりすることが少なくなってきている。

家庭科では、子どもたちが日常生活への関心をもち、家庭生活を支えているものに気付き、家族の一員として絆を深めながら家庭生活をよりよいものにしていこうとする実践的態度を育てていきたいと考えた。

また、家族とのかかわりを大切にして学習を進め、自己有用感を味わわせることにより実践への意欲化が図れるのではないかと考え、研究主題を設定した。

～めざす子ども像～
○自分の生活の中から課題を見付け、解決しようとする子
○学習で身に付けたことを、自分の生活に生かそうとする子

2　研究仮説と視点（「栄養満点弁当大作戦」の実践事例との関連で）

A　実践的・体験的な活動を効果的に取り入れた学習展開を工夫すれば、課題を見付け解決に向けて意欲的に取り組むであろう。

（ア）自分もできるかもしれない、やってみたいという期待感と、自分にもできたという達成感をもつことができる題材・教材・教具や導入を工夫する。
☆　バランスチェックシートの活用
☆　旬を取り入れるという条件の設定

（イ）課題を見付けたり、理解を深めたり、技能を高めたりできる実践的・体験的な活動を効果的に取り入れ、すべての児童に体験を保障する学習形態や活動を工夫する。
☆　家族のアドバイスを生かす家庭での試し調理
☆　前題材の学習を生かす題材計画

B　自己有用感を高める指導と評価の工夫を行えば、自信をもち、今後の実践への意欲を高め、学習したことを生活に生かそうとするであろう。

（ア）家族に認められ、協力することの喜びを味わうことができるように、課題設定や題材構想を工夫する。

☆　家庭科だよりの発行
☆　家庭で実践する場を設定する題材構成

（イ）成長を実感できる自己評価や、よさを認め合う相互評価など意欲を高める評価を工夫する。

☆　ワークシートの活用
☆　評価の場の設定

3　成果と課題　「栄養満点弁当大作戦」から　＊５・６年生　複式学級

（１）期待できる効果

・児童の興味、関心を高める
・多様な活動が期待できる
・家族の愛情に気付かせる

（２）「旬を取り入れる」という条件を設定したことによって

・家庭での聞き取り調査をすることにより旬の素材を意識させることができ、家庭での実践につなげることが容易になる。
・旬の素材のおいしさを感じ、旬や素材の新鮮さを意識して調理することは、生活を豊かにしていくことにもつながる。
・旬の時期がどんどん変わっていくことを意識させることができ、時期がずれた場合は、食材を変えて作ることも可能であることが理解できた。
・給食時の委員会からの放送に、「今日の赤屋の野菜」を紹介するコーナーができ旬を意識するようになった。

（３）実践的・体験的な活動の工夫として、家族のアドバイスを生かす家庭での試し調理を実践して

・母親からのアドバイスを受けながら、家庭で何度も卵焼きを作り、実習時には自信をもって取り組んだ。
・みんなのお弁当に入れる卵焼きを自分が作らなければならないという状況に置かれたことと、具体的なアドバイスや励ましがあったことから、見通しや自信がもてたのではないかと考える。
・家庭での試し調理を行い、家族からのアドバイスを受けて本実習に臨むことができた。また、夏休みには家庭でお弁当づくりに挑戦した。
・家族からの励ましやアドバイスは、児童にとって自信をもたせ自己有用感を高めることができる。
・協力を依頼する際には、一人一人の写真を貼り、子どもの取組の様子がよく分かるようにした家庭科だよりを発行したことも効果的であった。

（４）本題材について

・「お弁当づくり」は意欲を高め、持続することができる題材であった。班で協力して作るため、自分の担当するおかずに対する責任感も高まり、お弁当箱へ詰める際も個性を発揮することができた。また、もっとこうしたい、今度はこういうふうに変えてみたいなどと、発展的に取り組むことのできる題材であった。

（５）今後に向けて

・課題は多いが、意欲を高めるために題材設定や家庭との連携の重要性を実感することができた。今後も家庭との連携を図ることを大切にしていきたい。